

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	中山間地域振興プロジェクト事業(下栗モデル)	会計	一般会計	事業No.	623	施策順No.	72-016
		事業種別	政策・重点	予算科目	2-1-5-15-2		
政策	7 自立・連携した地域づくり	課等名			上村自治振興センター		
施策	72 自立に向けた住民組織力の向上	事業期間	開始	22	終了	27	

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	下栗地区						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
		下栗自治会数	1	1	1	1	1	
	意図	①下栗の人口を増やす ②上村全体の交流人口を増やす						
対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
	①下栗人口 (10/1現在)	122	116	113	113	113	113	B
	②上村交流人口	93275	84079	89251	86000	71300	90000	
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	7月の豪雨による影響で観光客が減少した。							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	<p>庁内関係部署が連携体制を組み、中山間地域振興計画に基づくプロジェクト事業を実施する。人口減少が進み、地域の担い手が高齢化する中山間地域の象徴的な課題が顕在化している上村地区の活性化を目的に、人の暮らしと厳しい自然環境がかたちづく、全国的にも貴重な景観と文化を有している「下栗地区」を重点対象地域とした中山間地域振興のモデルとなる取り組みを行う。</p> <p>下栗の景観と暮らしの文化を保全し、その価値を市民の財産として後世に伝え、そこに暮らす人々の生活を守るために下栗自治会が行う「下栗の修景と生活文化保全計画」策定を支援する。その後、下栗住民による長期的な取り組みになることをめざし、23年度に「下栗憲章」(修景計画に基づく地域の申し合わせ)を制定し、担い手として内外から「下栗応援団」を募り、事業を計画的に推進する。計画策定に併行して、課題が顕在化している鳥獣被害対策、農産物のブランド化、里山整備、エコツーリズムの推進等を新たにセットし、総合的に支援しながら、下栗のブランド力を高める。</p>		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	<p>下栗の優れた景観と暮らしの文化を保全し、その価値を市民の財産として後世に伝え、そこに暮らす人々の生活を守るために、下栗自治会が取り組む「下栗の修景と生活文化保全計画策定事業」を支援。</p> <p>この他、中山間地域振興のモデルとして、「鳥獣被害対策、里山森林整備」を実施。</p>	<p>1、修景計画策定(推進委員会による)</p> <p>2、有害鳥獣対策</p> <p>3、特産物のブランド化</p> <p>4、応援団による遊休荒廃農地の耕作</p> <p>5、エコツアー</p> <p>6、森林整備</p> <p>7、空き家調査</p> <p>8、HPの製作</p>	<p>1、修景計画書(推進委員20人)</p> <p>2、計画書一式</p> <p>3、3品目</p> <p>4、応援団3団体、耕作6a</p> <p>5、ツアー2回</p> <p>6、15ha</p> <p>7、空き家38戸</p> <p>8、HP製作</p>
23年度実施計画	<p>修景計画策定後、これに基づき具体的な事業実施に取り組む。また、修景計画と関連し下栗上部にある「上の平公園」の活用プランについて下栗自治会の研究を開始する。</p> <p>下栗応援団の組織化をすすめ、遊休荒廃農地の耕作を拡大する。また、エコツアーを推進する。</p>	<p>1、下栗応援団</p> <p>2、遊休荒廃農地の耕作</p> <p>3、ツアーガイド養成</p>	<p>1、応援団8者</p> <p>2、耕作1,720㎡</p> <p>3、ツアーガイド10人</p>

3 事業コスト

事業費	特定財源	(千円)	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	※下栗自治会として山村再生プランの補助事業を導入
	国庫支出金					
	県支出金					
	起債					
	その他					
一般財源		475	475	0		
計(A)		475	475	0		
正規職員所要時間			104			
臨時職員等所要時間						
人件費計(B)			372			
トータルコスト A+B			847			

4 事業に対する市民や議会の意見

<ul style="list-style-type: none"> 中山間地域の振興、遠山郷観光振興や有害鳥獣対策について議会から質問ある。 下栗の優れた景観を守るため景観条例の制定か景観協定の締結をすべきとの意見がある。 21年7月に実施した上村住民を対象としたアンケート結果では、重視してほしい農業施策として有害鳥獣対策74%、次に遊休荒廃農地の再生39%であった。また地区外からの応援を求めることに賛同する意見が54%と高かった。
--

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分		具体的な取組事項	
21年度決算と比べての効果額(千円)		効果額説明(算出根拠)、特殊要因	

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	地域で考え、地域で活動し役割を果たせる組織となる。	施策の成果指標又はムトス指標	自主的な地域活動5,500、自主的な地域づくりの参加者数200,000人 地域活動に参加している住民の割合75%
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	下栗というブランドが出来つつある		
	後期に向けた課題	修景計画に基づき、計画的に景観保全をすすめる		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	下栗地区の住民が中心になるよう取り組んできた		
	後期に向けた課題	今後も地域が一体となって取り組むよう工夫していく		
コストを削減するためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	各種補助事業等を活用してコスト削減を図っていく		
	後期に向けた課題	地区住民主体の活動としていく		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	市が支援することにより徐々に計画が進んできた		
	後期に向けた課題	現状維持していく		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を発揮するために、行政はどのような働きかけをされましたか、又は、配慮しましたか	4年間の振り返り	自治会主体の活動であり、市はアドバイザー的立場で関与してきた		
	後期に向けた課題	住民主体の活動を支援していく		
全体を通じて	4年間の振り返り	徐々に下栗地区のやる気を増進させ、下栗ブランドが作られてきた		
	後期に向けた課題	修景計画に基づき、計画的に景観保全をすすめる		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ある	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input checked="" type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	--	-------------------------------	-------------------------------	--------------------------------	--